

飛鳥

古きもの
明日のもの

2022年
秋から
冬へ
No.15



飛鳥川の飛石（稲刈）

世の中は 何か常なる 飛鳥川
昨日の涸ぞ 今の瀬となる
といった移り変わりの激しい世相に
たとえられることが多い川でもあった
のです。

この作者は何か事情ができて、飛鳥
の地を離れ、久しぶりに古里に戻って
きたのでしょうか。すでに都は藤原京に
遷都され、710年には平城京に移り
ます。今や古里飛鳥は変わり果てて昔
の姿はない。思い出深い石橋もすっか
りなくなってしまうたという感慨を詠
んだ歌なのでしょうが。
その後も飛鳥川を詠んだ歌は多く



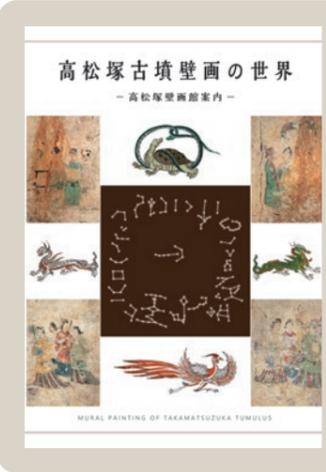
ちよっぼの立つ風景（祝戸）

写真 / 加藤秀行

年月も ますます過ぎてたというわ
けでもないのに、この飛鳥川の瀬ごと
に置かれていた飛石もすっきりな
くなってしまったなあ。

作者未詳（巻七一一二六）

年月も ますます過ぎてたというわ
けでもないのに、この飛鳥川の瀬ごと
に置かれていた飛石もすっきりな
くなってしまったなあ。



高松塚解説書リニューアル

高松塚壁画館では、約12年ぶりに解説書リニューアルいたしました。解説書の改訂は、壁画館開館以来4回目となり、2020年の壁画の修理完了までの最新情報が盛り込まれています。新たな解説書はA4フルカラーで32ページ。執筆・編集を奈良大学准教授相原嘉之氏に担当いただきました。本書では、壁画に描かれた人物像や四神、天井の星宿図などをそれぞれ分かりやすく解説しています。また、同じ壁画古墳として有名なキトラ古墳との違いも写真を通じて比較しています。今回は初めてコラムという形で、高松塚の名前の由来や、西壁女子群像のスカートの柄に関する注目点など紹介をしています。価格は1冊千円（税込）で、同館のほか、飛鳥総合案内所や飛鳥資料館などで販売しております。「新解説書」を是非お買い求めください。



飛鳥寺西方遺跡の土管

土管のはじまり

日本における土管の歴史は飛鳥時代にはじまります。その物証が飛鳥寺西門跡付近と飛鳥寺西方遺跡でみつかりました。この土管は飛鳥時代の地表から地下1mのところに設置されていました。出土した土管を詳細に観察すると、外面には須恵器の整形技法のひとつ、櫛状工具でなでたカキ目文が残っています。内面には円筒の成形台から瓦をはずしやすくするための布目の圧痕も残っています。土管の焼き質は瓦質ですが、製作技術は須恵器と瓦のブレンドです。ただ、土管が暗渠として設置された年代には7世紀初頭または7世紀後半と見解が分かれています。飛鳥時代につくられた土管であることは間違いありません。

これまでの発掘調査の結果、飛鳥寺西の土管は、南北約185mにわたって延びることがわかりました。つまり、1本約56cmの土管が284本以上連結されていたこととなります。

土管のはじまりである飛鳥寺西方遺跡の土管は明日香村埋蔵文化財展示室で見ることが出来ます。

（文化財課 長谷川透）



飛鳥宅配便

～明日香まると玉手箱～



明日香村は重要な歴史的遺産が数多く存在する傍ら、農業が村の主な産業となっています。しかし、農業を取り巻く環境はとて厳しく、情勢の変化や高齢化、経済効率の面などから、困難な状況になっています。明日香の素晴らしい景観や風土を保存するためには農業を応援していく事が、何よりの方法なのだと思います。

このような背景から、農業者と「明日香村地域振興公社（愛称：あすか夢耕社）」が一丸となり始めたのが、「飛鳥宅配便」です。

明日香村の特産品を詰め合わせた宅配は今年で27年目。丹精込めて栽培した野菜や果物、地元の人のアイデアで生み出された加工品が季節のプレゼント（お料理レシピや稲穂等）と共に送られてきます。



ロングランの人気商品
「古代米セット」(赤米・緑米・黒米)

「宅配を通して、一人でも明日香ファンを増やしたい。秋は新米や古代米、冬はどや餅や飛鳥鍋の素が人気です。LINE登録でお得なキャンペーンや村の旬情報を見ていただけます。」と夢耕社の的場由奈さん。

収穫の秋・大地のパワーを蓄えた冬のとっておきの宅配をご自宅用にも贈答にもいかがですか。



「采女の宅配便」
農産物と加工品をセットにして
4,510円（送料別）

お問い合わせ先
一般財団法人 明日香村地域振興公社
(愛称：あすか夢耕社)
〒634-0137
奈良県高市郡明日香村真弓1042番地
TEL 0744-54-9200
E-mail: info@asukatakuhaibin.jp
HP: https://www.asukatakuhaibin.jp

ONLINE SHOP



公式LINE
友だち募集



Restaurant introduction

飛鳥からの便り

子どもの頃「ねんど山」と名付けられた森で探検するのが大好きだった。山菜や木の実を採ったり、崖の上から飛び降りたり…。子どもだけの遊び場は危険がいっぱい。見守る大人もいなかったし、防空壕の名残もあった。時代の移り変わりと共に、山に捨てられるゴミが増え、人が立ち入れなくなり、森は潰され、今は競技場となっている。今回取材した「森ラボ」の久住さんの活動は生きた教科書として環境問題にも一石を投じ、心豊かに生きる大切さを知る事となった。

「自分の木」の話は柳生博氏であったか。「一本の木と人生」の話ができる友になれ」と語っておられたのが印象に残っている。



新子 信子

飛鳥の玄関口として発展してきた今、花が咲くのが待ち遠しい駅前になりつつあるのかな…と自負しています。そして年に一回は地元住民の方と高取国際高校の学生達との交流作業も活気のある楽しみの一つです。

時間の束縛もなく、会費や資格も必要なし(笑) 気持ちいが、めばえ、た方、大歓迎です。一緒にサポーターしませんか。

※Instagramで駅前の様子をご覧いただけます。
お問い合わせは古都飛鳥保存財団まで



KOTO_ASUKA



飛鳥の玄関口として

私たちは
古都飛鳥保存財団の活動を
応援しています



暮らして

「森ある暮らしラボ（通称「森ラボ」）ってなあに？」
森と人がつながり、
「いい・いい」だす
実験室



「森ある暮らしラボ（通称「森ラボ」）ってなあに？」
森と人との暮らしが離れてしまった現在、私たちの日常の中にもっと森とのかかわりを持っていただろうか。例えば森の中でお弁当を広げ、おしゃべりに花を咲かせたり、木陰で読書やヨガを楽しんだり、子どもたちの笑い声が絶えない森の探検だつたり！そんな森づくりにつなげるために作られたのが「森ラボ」なのかな。

始まりは2017年。林業家の久住一友さんが築100年の古民家を借り、仲間と共に改修を重ね、そこに集う人がそれぞれのやり方で森とのつながりを実現し、検証出来る場所を作った。つまり、「森ラボ」とは活動の拠点となる古民家の名前であり、取り組み全体の名称でもある。そこでは「こども造形教室」や「こつぶみ絵画室」など、作家が主宰する教室が開催され、子どもたちの楽しみの場となっている。

「森ラボ」は志を持った若い人たちの活動を応援する場です。木工でも食



シェアカキッチン=食事や
お茶をふるまったり、販
売のお菓子を作る人も。

は「こども造形教室」や「こつぶみ絵画室」など、作家が主宰する教室が開

を提供する場でも、美術教室でも。形にとらわれず、色んな入口から森へアプローチしてもらえたら嬉しいです。」と久住さんは言う。

「シェアスペース」は木彫作家熊田悠夢さんの「こども造形教室 アトリエ・ふね」この日はレインステイックを作る穏やかな一日。



シェアスペースは木彫作家
熊田悠夢さんの「こども造
形教室 アトリエ・ふね」
この日はレインステイック
を作る穏やかな一日。



▲大人対象の森林浴
「見て・感じ・考える」

まだ改修途中の「森ラボ」だが、森ラボの理念に共感した人々が集まり、新たな試みの拠点として、きっと明日香村の未来につながるに違いない。

連絡先
森ある暮らしラボ [MORI LABO] 明日香村岡1219番地
HP <https://morilabo.org/> E-mail morilabo2017@gmail.com
森ある暮らしラボ 森ラボ kids

あみま倶楽部アプリ

近畿鉄道のハイキングコースをアプリで楽しもう!

近畿日本鉄道より、飛鳥をはじめとした沿線のハイキングコースをアプリで楽しめる「近鉄あみま倶楽部アプリ」をご紹介します。

このアプリでは沿線のハイキングコースを歩きながらデジタルスタンプを集めることができ、スタンプラリー感覚でハイキングを楽しめます。

また、このアプリは飛鳥の散策にも大変おススメです。飛鳥エリアでは「飛鳥コース①」「飛鳥コース②」のハイキングコースが登録されており、どちらも駅がスタート、ゴールとなっております。



「飛鳥の風景」

セスもばつちり。「飛鳥コース①」は高松塚古墳や石舞台古墳、「飛鳥コース②」は甘樫丘や飛鳥寺など飛鳥の名所を楽しめるコースです。観光名所を周遊しながらのんびりハイキングなんていかがでしょう。また、こ



デジタルスタンプ (イメージ)

ス上に設定されたチェックポイントで獲得できるデジタルスタンプは、各名所にちなんだデザインとなっており、歴史やおススメポイントなども知ることが出来ます。旅の記録にもなるデジタルスタンプを、ぜひ色々集めてみてください。

そのほか対応コースは近畿沿線で70コース以上もあり、歩いたコース数



HPはこちらから



アプリ画面 (イメージ)

に応じて、ピンバッジのプレゼントもありますので、ぜひダウンロードしてみてくださいね。詳しくはホームページをご覧ください。

景

飛鳥駅前サポーター活動報告

「私たちが一緒にサポーターしませんか？」
月に2回の月曜日、私は飛鳥駅前作業へと向かいます。
ボランティアメンバー「飛鳥駅前サポーター」が中心となり、四季の花を植えたり、除草作業を行っています。
飛鳥駅を利用される人たちが、少しでも足を止めていただけるよう、何年か先にも、美しい飛鳥駅が継続できたら嬉しいなあ…という思いで土



飛鳥駅前サポーター

